

被爆69年 桜隊原爆忌 原爆殉難者追悼会

2014年 8月 6日(水)

午前10:30～ 碑前祭 12:00～ 追悼会



島木つや子



高山象三



笠 綱子



小室喜代



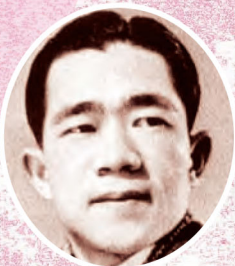
羽原京子



森下彰子



仲みどり



丸山定夫

移動演劇「桜隊」を知っていますか？

1945年8月6日、移動演劇桜隊は広島で被爆しました。

爆心地から750mの地点。5人は即死。

4人は放射能によって、もがき苦しみながら亡くなりました。

なぜ、彼らは広島にいたのでしょうか？

…………… 知ることから始まります。



園井恵子

1941年6月9日、内閣情報局により「日本移動演劇連盟」が結成された。そして半年後の12月8日、日本は真珠湾攻撃を遂行し、太平洋戦争へと突入した。

すべての演劇人は大政翼賛会の管理下におかれ、表現の自由は完全に奪われた。そんな中、1942年、

劇団「苦楽座」が創立。地方への慰問巡演活動が始まった。演劇人としての“矜持”を失うことなく活動を続けた彼らの原動力はどこにあったのか。当時の体制と社会情勢、演劇環境をひもとく、現代の視点から移動演劇を考える。

追悼会の主な内容

◎朗読構成◎

仲みどりの生涯と そのカルテの行方

構成・演出／桜隊原爆忌の会事務局

仲みどりは、世界で初めて名付けられた「原子爆弾症」の第1号患者である。被爆後救助された仲は臨時収容所で一夜を過ごし、8月8日朝、軍隊天幕をまとって裸足のまま抜け出し、午後4時42分発の上り復旧列車で東京に戻る。大きなけがもなく、演劇への情熱を誓うが、体調がすぐれず東大病院に向かい、都築正男教授による手厚い治療を受けることになった。しかし、放射能に触れた体は治療のすべもなく8月24日死亡。世界初となる原子爆弾症の貴重な記録が残されているはずであった。その生涯を追う。

出演／武田光太郎(フリー) 中島文世(劇団文化座)
福原美佳<予定> 森尻斗南(劇団俳優座)

◎報告◎

仲みどりのカルテ発見まで

朝日新聞社・専門記者(医療・被爆担当/福島駐在) 大岩ゆり

東大病院に残されていたのは仲みどりの「剖検記録」と病理標本の一部のみで、当時は米占領軍に接収されたのではないかという見解が強かった。唯一、1973年に米国から返還された占領軍接収資料の中に英訳カルテが見つかったが、大半が機密解除されているにもかかわらず、原本は米公文書館に存在しないことも判明。その後の医・科学者、報道陣による調査でも発見に至らず、2005年の毎日新聞では2つの可能性が示唆された。東大病院で秘密の場所に隠したか、米国が接収し報告書作成後に日本で廃棄したか…。そうして、昨年、原爆忌の前々日、朝日新聞に「カルテ発見」のタイトルが踊った。

会 場：目黒 五百羅漢寺
☎03-3792-6751

参加費：3,000円(献花料・記念写真・昼食代含)
高校生以下1,000円

※お問い合わせ・お申し込みは、桜隊原爆忌の会世話人事務局まで(裏面参照) ☎03-3667-1890 FAX03-3667-1891